

脳脊髄液減少症(のうせきずいえきげんしょうしょう)

原因

- 脊髄を包む硬膜の外に脳脊髄液が漏出し、頭蓋内の圧力が低下するために起こる症状です。
- 脳脊髄液検査や開頭手術を受けた方(医原性)や、交通事故やスポーツ外傷などの軽い頸部や腰部のケガをした方(外傷性)、髄膜炎や脱水症をおこした方に起こることがあります。

症状

- 起立性頭痛(寝ていれば大丈夫だけど立つと頭痛がする)が多い。
- 吐き気、視力障害、複視(物がダブって見える)、めまい、耳鳴り、頸部痛も起きる。

似たような症状をおこす病気

- 脳出血や脳腫瘍は頭部 MRI で区別します。またこの症候群では MRI で硬膜下水腫や硬膜の造影所見を伴うことがあります。
- 髄膜炎や脳炎は脳脊髄液検査で区別します。またこの症候群では脳脊髄液圧が 6cmH₂O 以下に低下しています。
- RI 脳槽シンチグラフィーで硬膜外に脳脊髄液が漏出しているかどうかを見ます。

治療法

- 保存的治療
 - 2-4 週間程度の安静臥床と十分な水分補給を行います。
 - 脳室腹腔シャントが原因であれば髄液排除量を調整します。
- 硬膜外自家血注入療法(ブラッドパッチ、EBP)
 - 保存的治療が無効なら、ご自分の血液を硬膜外腔に注入する処置をします。
- 髄液漏閉鎖術
 - さらに効果がなければ穴をふさぐ手術を行います。

さいごにひとこと

- この病気に関しては国際医療福祉大学熱海病院脳神経外科の篠永先生が高名です。予約は取りづらいようですが、紹介状をご希望の方はおっしゃって下さい。一両日中に作成いたします。

みやさきクリニック 宮崎秀健